



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

都道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 石峯中 学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	石峯中学校 1～3年生徒 165名 教職員 19名 計184名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ 二條実穂選手講演会 ）
4 目標 （ねらい）	障害をもった方たちと共生する豊かな社会をつくらうとする心情を養う。 車いすテニス選手・パラリンピアンに尊敬の念を持ち、その心情の強さを感じ、人の生き方について考え、自分の目標へとつなげる。
5 取組内容	<p><事前学習></p> <p>○ パラリンピックについての調べ学習（総合的な学習の時間）</p>  <p><7月2日 二條選手の講話></p> <p>○ パラリンピック競技の意義と見どころ</p> <ul style="list-style-type: none"> パラリンピックは、「勇気・強い意志・インスピレーション・公平」を重視している。 多様性を認め、誰もが個性や能力を發揮して活躍できる公正な機会が与えられる場であること。それぞれ異なる障がいを持つ選手が平等に競うために障がいの「種類」「や」「程度」によるクラス分けがされている。 

	<p>○ ボッチャ体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ジャックボール」という白い目標球に、ボールをいかに近づけられるかを競った。思ったところにボールを止めるのが難しく、ファインプレーが出たときには、思わず笑顔でガッツポーズをする姿も見られ、障がいの有無に関わらずみんなで楽しむことができることが分かった。 
6 主な成果	<p>○ パラリンピックに関する知識を得たことで、出場選手一人一人が、夢の実現に向けて不断の努力をしていることができた。また、共生社会の実現に向け、自分に何ができるかを考えるきっかけとすることができた。</p> <p>○ バリアフリーの実現には、環境だけでなく、周囲の人が「心のバリア」を取り除くことが大切であることに気付くことができた。障がいを個性ととらえたとき、誰にでも得意・不得意なことがあるということ、互いに協力して課題解決に向かうことが大切であることを学ぶことができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○ パラリンピックについて、事前に総合的な学習の時間で調べ学習をした。</p> <p>○ 講演会での講師を招聘するに当たって、市内の小・中学校と連携して計画を立てた。それにより、経費を抑えることができた。</p>
8 主な課題等	<p>○ 様々な人と交流する機会や、体験活動等を教育課程の中に位置付け、多様性を実感的に理解できる生徒を育成したい。</p> <p>○ オリ・パラ教育を、他教科等の学習と関連付けた年間計画を立案・実践することで、さらに生徒の変容がみられると考える。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今後もオリンピック、パラリンピック選手等、夢の実現のために努力する方を招き、子どもたちと交流、講演、スポーツ教室等を通して、オリンピック、パラリンピックやバリアフリーについての関心を高め、さらなる理解を深めたい。</p> <p>また、限界に挑む姿や障害を克服した心情・態度を知り、生徒が自分自身を振り返る機会にしたい。具体的には、多様性を認め、一人一人が個性や能力を発揮し、活躍する機会が誰にでもあること、自分のために、他者のために、今すべきことは何かなどを考える機会としたい。</p>